

2014.11.1

111

もくじ

会報

2

寄稿

京都の文化遺産を守り継ぐために
大原野神社の文化財保存の取り組み

大原野神社 禰宜

齋藤

昌通

4

表紙写真解説 守り伝えよう京都の文化財
助成文化財紹介―「西明寺 客殿」

5

特集

京都の庭園文化

-1-

9

保護財団の活動

京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター共同研究員
植彌加藤造園株式会社

菅沼

裕



公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団

Kyoto cultural tourist resources protection foundation

大原野神社の文化財保存の取り組み

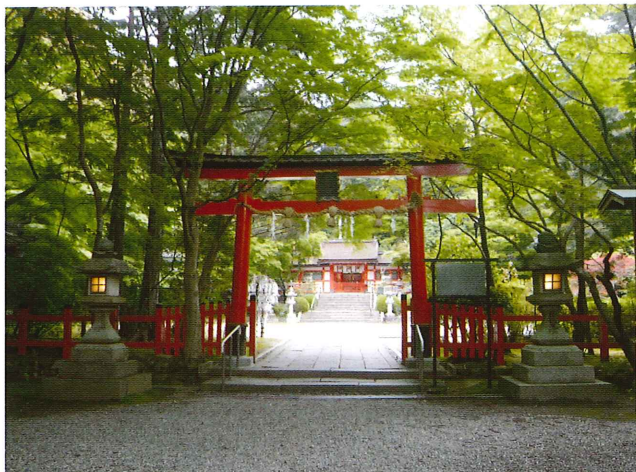
齋藤 昌通

大原野

向日市の西、凡そ西山山麓に位置する大原野は京都市域の都市化が進む中で市街化調整区域、京都府歴史的な環境保全地域として自然が豊かに残され、古の都長岡京や日本最古の物語である竹取物語、源氏物語とその作者紫式部等との縁も深く歴史の風情を感じると共に、鎮護国家の古刹も多く存在し文化財にも恵まれた良き地である。

大原野神社

当神社は延暦3年(784)の長岡遷都に際し、桓武天皇・皇后が藤原氏の氏神、奈良春日社の神を勧請したのに始まる。のち、藤原北家の願により文徳天皇によって西山、小塩山麓の現在地に壮麗な社殿が造営された。以来、中世後期まで春日社に次ぐ藤原氏の氏神として春日社に準じる祭祀をうけ、歴代藤原氏出身皇后の参拝が長く続いた。近代社格制度により明治4年5月14日には官幣中社に列格した。



大原野神社境内

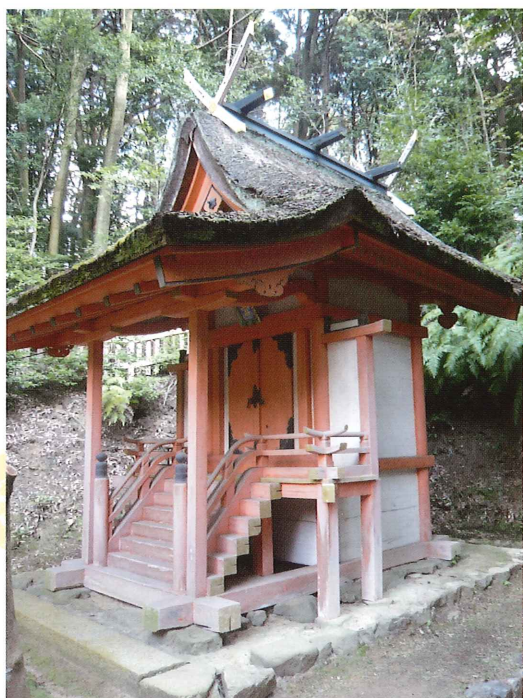


大原野神社本殿

中門とその東西廊の奥に春日造り檜皮葺きの本殿四棟が東西に並ぶ現社殿は慶安年間の造営で、去る平成20年3月には昭和45年以来38年ぶりとなる修復工事を終えている。本殿四棟、中門とその東西廊は京都市指定有形文化財で、他に摂社として鯉沢池^{こいさわのいけ}東方に若宮社(未指定)がある。

摂社若宮社の修復

若宮社は本殿同様に丹塗り檜皮葺きの一間社春日造で、創建年代は詳らかではないが春日社系社殿の形態をよく伝えるものとして価値が高い。この度、昭和62年の屋根葺き替えより26年を経て檜皮屋根の腐食や動物による損傷が著しく、内部に雨漏りの生じる恐れもあることから平成25年9月から同年12月末にかけて修復を行った。この事業に対し公益財団法人京都市文化観光資源保護財団より助成を頂いたことは、社殿のみならず境内整備に経費のかさむ当神社にとって大変有難いことで、紙面をお借りして衷心より御礼申し上げる次第である。



修復前後の摂社若宮社（写真上：修復前，写真下：修復後）

さて、26年ぶりの若宮社の修復に対し、6年前に38年ぶりの修復を終えた本殿四棟を始め中門とその東西廊であるが、一般的に言われる檜皮屋根の耐用年数35年を考えると若宮社の屋根の耐用年数は短すぎる感がある。これは立地条件による通気性の悪さや周囲に繁茂する樹木が要因と考えられることから、その保存管理においては目先ではなく50年後100年後を見据えた周辺環境の整備が必要であり、当神社の今後の課題でもある。

文化財保存の取り組みと苦勞

本年、西京区に竹をイメージしたマスコットキャラクター「たけにょん」が誕生したように、ここ大原野でも筍は特産品の代表である。実は当神社の境内（約2万5千坪）は三方を竹林に囲まれている為、毎年4月中旬から5月中旬にかけては定期的に境界を歩き、境内に生えてくる筍（時には竹に成長している）を倒

したり切ったりして境内への侵入を防いでいる。時には農家の嫌われ者である猪が私の良きパートナーとなり、夜間に土まで掘り起こして存分に筍を食べてくれているが、それでもこの春に私が処分した筍の数は数百にのぼる。ご存知の通り竹は繁殖力が強く、これを放置すれば社殿の周囲が竹林で覆われてしまい、もはや手の付けられない状態になってしまう。ちなみに、この度修復を終えた若宮社の南側十数メートル先は孟宗竹の藪である。

次に、平成17年6月に関西野生生物研究所の川道先生がアライグマなる動物の調査に来られ、柱に残る多数の爪痕からこの動物の存在を確認された。それまでの私はというと、タヌキとアライグマの区別もつかぬほどで、実際に社殿に接する土塀の上を歩いているアライグマを見たり、夜間に社務所の天井裏から大きな

物音を聞いたりしていたが、いずれもタヌキや猫だと思っていた。そして、改めて川道先生からアライグマの生態や文化財に及ぼす影響についてのお話を伺い捕獲の必要性を痛感し、以来その実践に努めている。平成17年7月からのアライグマの捕獲数は56頭に上る。(10月3日現在)

私にとって「文化財を守ること」とは「境内地を守ること」であり、先に述べた竹やアライグマの問題は一生の課題である。何事も続けるというのは大変なことで、「根気強く頑張ってください。」との川道先生の言葉が私を後押ししてくれている。福井県の中でも特別豪雪地帯に指定される地で生まれ育った者らしく、今後もねばり強く対処していく所存である。

(大原野神社禰宜)

表紙写真解説

守り伝えよう京都の文化財—助成文化財紹介

西明寺 客殿

京都市右京区梅ヶ畑横尾町



西明寺



客殿全景

横尾山西明寺は、真言宗大覚寺派に属し、春は桜・山つつじ、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色と四季折々の自然が豊かで風光明媚な古刹である。高雄(尾)山神護寺、梅尾山高山寺とともに高雄の三尾として知られる。

寺伝によると、天長年間(824~834)に空海の高弟 智泉大徳が神護寺の別院として創建したと伝わりその後、永禄年間(1558~1570)に兵火により堂宇が焼失し、慶長7年(1602)に明忍律師により再興された。現在の堂宇は、徳川綱吉の生母桂昌院の寄進により再建されたものといわれるが、東福門院(後水尾天皇中宮)の寄進とする説もある。

客殿は、江戸時代初期に移築されたもので、もとは食堂として僧侶の生活や戒律の道場として使われていた。入母屋造の柿葺きの住宅風の優美な外観の建物である。

近年、老朽化による柿葺屋根の損傷が著しく雨漏りが生じたため、アライグマの被害もあり損傷が拡大する恐れがあるため昨年、屋根葺替えなどの修理工事が行われ、当財団で助成を行いました。 撮影／神崎順一

京都の庭園文化 - 1 -

菅 沼 裕

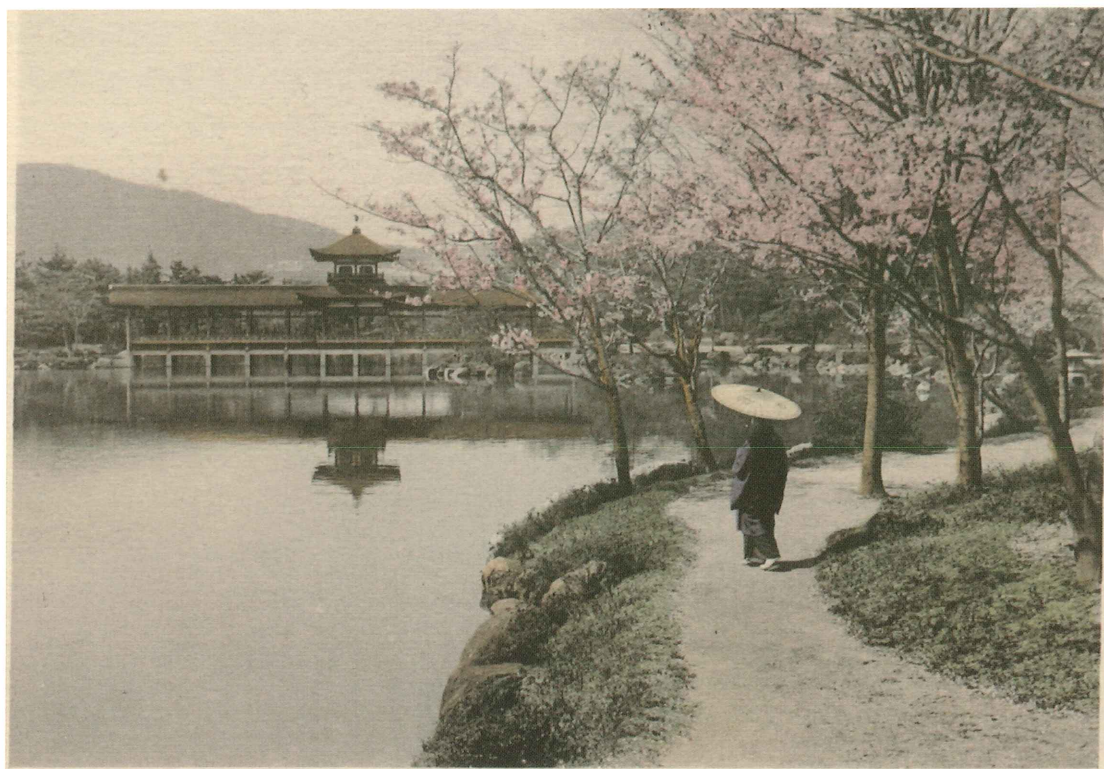
京都は平安京造営以来、数多くの庭園が作られてきました。長い年月文化・政治の中心であった京都では、寝殿造式、書院式、枯山水、茶庭（露地）、回遊式など、日本庭園を分類するために命名された様式の庭園は全て作られていたといっても過言ではありません。

もちろん、京都以外にも平泉や鎌倉、一乗谷や江戸など、各時代、各地で独自の庭園文化が生まれ、多くの名園が作られていますが、少なからず京都の庭園文化の影響を受けていることは言をまたないところです。

このように庭園文化を継承してきた京都ですが、政治・文化の中心地であるがゆえに、常に変化も求められてきました。新しい宗教の普及、武士などの新興勢力の台頭による政治・経済情勢の変化などにより生活

様式が変わるたびに、京都では新しい庭園像を求めて試行錯誤が重ねられていたのです。江戸幕府が倒れ、新政府が誕生した明治時代も例外ではありませんでした。

それまでは朝廷を中心とする貴族社会や寺社などの宗教社会を支える役割を担っていた京都ですが、奠都により華族となった貴族達は東京に移り、神仏分離や廃仏毀釈といった宗教政策により寺社の経済基盤が失われることにより、京都の経済社会は根底から覆されることになってしまいました。この時期、奈良興福寺の五重塔が売りに出されたことが有名ですが、京都でも多くの社寺の建物が売却されたり、公共施設として接収される中で庭園もまた失われていきました。



大正期の平安神宮神苑 出典:「Characteristic Gardens in Japan.」高木庭次郎 大正9年(1920)発行



大正期の平安神宮神苑 出典:「Characteristic Gardens in Japan.」高木庭次郎 大正9年(1920)発行

そして明治も後半になり、政治状況が安定し、経済が発展していくと、政財界の著名人がこぞって京都に別宅を構え、庭園を作るようになります。山縣有朋の無鄰菴を皮切りにした、現左京区の岡崎・南禅寺界限に残された別荘庭園群が特に有名ですが、東京に住んでいた政財界の中樞人物だけでなく、京都の政財界で活躍していた人達も別邸を営み、市内各地に庭園を作っていました。

こうした、京都の変化を克明に捉えようとした人物の一人に秋元興朝（あきもと おきとも、安政4年～大正6年・1857～1917）がいます。興朝は現栃木県宇都宮の戸田家の出身で、長じて現在の群馬県館林を治めていた秋元家に養子に入り、貴族院議員となって政治家として活躍した人物ですが、幼少の頃に京都にいたことが関係しているのか、京都の歴史ある文物にひとかたならぬ関心を示し、公務の合間に京都を訪れてはその様子を記録していきました。四半世紀にわたる京都の見聞録とでもいう記録は、没後に『旧都巡遊記稿』として出版されましたが、それを讀むと、江戸時代に著名でありながらもやがて失われてしまう社寺や庭園の様子など、当時の京都の様相が詳しく記されています。

一方、『旧都巡遊記稿』には近代の文物は全くといっ

ていいほど登場しません。新しい物を作っても魂が込められていなければ価値が無いと考えていたのでしょうか。興朝はそうした自分の心情を述べていませんが、近代化を進めていく京都を少し寂しい思いで見つめていたのかもしれません。

そして、興朝が亡くなってほぼ100年経った現在。円山公園や琵琶湖疏水などの公共施設、平安神宮や無鄰菴といった新興の庭園なども近代という時代を象徴する歴史的な文物として文化財に指定される時代になりました。平安京以来、変化しながらも連綿と続いてきた京都の文化。その中で今回は明治時代の庭園の一つ、平安神宮神苑に焦点をあて、ご紹介しようと思います。

平安神宮が平安遷都千百年記念祭や第4回内国勸業博覧会にあわせて創建されたことはよく知られていますが、桓武天皇を祀った新たな神社を創建しようという動きは明治10年代からありました。奠都によって衰退が著しい京都の復興策の一つとして、千年以上栄えてきた京都の歴史を見直し、顕彰するため、平安京造営に携わった桓武天皇を祭る神社を創建する、という構想を最初に打ち出したのは岩倉具視でしたが、ほどなく具視が死去したために具体化しませんでした。

そして、平安遷都千百年記念祭に際して、神社創建の動きが活発となりますが、まず決まったのは記念の施設として「模造大極殿」を建立することで、平安神宮の創建が決定されるまでには若干の紆余曲折がありました。課題となったのは、敷地や資金の確保、後の維持の手法などについてで、それらの課題を一つ一つ解決していき、明治26年（1893）9月の地鎮祭を迎えることになり、その後、大極殿などの建築や敷地の造成などが順次行われていきました。現在の西神苑と中神苑（当時は中神苑を東神苑と呼んでいました）の作庭の工事が始まったのは明治27年（1894）の12月からで、それを請負ったのが植治こと7代目小川治兵衛です。

小川治兵衛はその時34歳。並河靖之邸（現在の並河靖之七宝記念館）の作庭をすでに終え、山縣有朋の無鄰菴の作庭にとりかかってはいたものの、まだ若く、無名といってもいい状態でしたが、この大工事に取りかかります。与えられた工期は3ヶ月。追加の工事もあったために工期が延長されますが、かなりの突貫工事であったと思われます。

設計書を見ると、庭園部分だけでも延べ2千人近い人夫を使つての大工事であり、植治にとってもこれほどの規模の作庭は初めてだったでしょうが、着実に仕事をこなし、神苑を完成させます。以後、平安神宮神苑の改修などは、一貫して植治が担うこととなり、その関係は植治が亡くなるまで続きました。

今でも同じことですが、庭園は設計書通りに作ればいいものではありません。望んだような材料が手に入らなかったり、実際に樹木を植えてみると思ったような景観とならなかったりした場合、修正を加えていく必要があります。平安神宮では、当初、西洋式庭園のような雰囲気^がの神苑を目指していたようで

すが、本殿や大極殿など、昔ながらの様式の建築と対比した場合、荘厳さに欠けるという指摘もあり、途中で植栽する樹木などを変更しながらの作庭となりました。

完成した神苑は中神苑の流れと流れに続く西神苑の白虎池からなり、池や流れの岸の護岸も穏やかな作りで、植治の作風の萌芽を感じ取ることができます。白虎池の周囲の樹木の高さも絶妙のバランスを保つように考えられ、作庭間もない時期の写真と今とを比べてもあまり違いはありません。また、中神苑は当初は高木も少なく、東山が望めるように作られており、かなり明るい雰囲気の流れであったと思われます。ちょうど山縣有朋の別邸無鄰菴^がを作庭している時期とも重なるため、あるいは無鄰菴の流れの意匠の影響を受けていたのかもしれませんが。

そして、明治の末に、現在の東神苑の敷地を境内に編入すると、再び植治に作庭がまかされることとなり、栖鳳池を中心とする東神苑が作庭され、あわせて中神苑も改修され、現在見るような神苑の姿が完成します。

この改修で中神苑には臥龍橋^がと呼ばれる中島に渡るための沢飛石が作られました。四角い石と丸い石を組み合わせた軽妙さにも感心しますが、この石はもともとは三条大橋や五条大橋に使われていた橋脚などを再利用したものです。植治はこうした橋脚の石だけでなく、白石など、加工された石を庭の随所に用いるよう



平安神宮神苑（西神苑）

になりますが、平安神宮はその初期の事例となります。

また、神苑内にしわが目立つ石を見かけることがあります。この石を^{もりやまいし}守山石といいま^す。琵琶湖の西岸に産出するこの石は江戸時代にも使われていたようですが、琵琶湖疏水の開通に伴って、琵琶湖から船に載せて大量に運び込むことが可能になりました。植治はこの石を多くの庭に用いており、平安神宮では東神苑に多く使われています。

しかし、東神苑が目立つものといえな^んとい^っても橋殿である泰平閣でしょう。宇治平等院の鳳凰堂を連想させるような優美なデザインを眺めるにしても、周囲から一段高くなった泰平閣の中から園内や東山を望むにしても、東神苑の要となっています。

さらに、神苑内には多くの桜とともに、松

やモミジ、サルスベリといった高木とともに、西神苑にはショウブが植えられ、花や新緑を愉しむことができます。昭和40年代に作庭された南神苑の桜が有名ですが、東神苑の池沿いに植えられた枝垂れ桜も、水面に花を映した姿はなかなか見応えがあります。

こうして作庭された平安神宮神苑は、作庭時期が異なる部分があるにもかかわらず植治の手腕によって一つの庭として作り上げられ、現在に至っています。伝



平安神宮神苑（中神苑の沢飛石「臥龍橋」写真 右端）



平安神宮神苑（東神苑の橋殿「泰平閣」）

統的な日本庭園の様式でありながら、西洋式庭園の雰囲気をも盛り込み、さらには近代庭園の萌芽となった神苑に植えられた木々や花々、そして東山を背景に広がる風景は、今も訪れる人々の目を愉しませてくれます。

（植彌加藤造園株式会社、京都造形芸術大学日
本庭園・歴史遺産研究センター共同研究員）

写真／神崎 順一

保護財団の活動

平成26年度第2回定時評議員会を開催しました。

去る、6月19日に平成26年度第2回定時評議員会を、評議員17名、理事・監事4名の出席のもと開催しました。6月19日 定時評議員会



はじめに、山口昌紀理事長から「京都の文化財や観光資源の保護と活用を担う公益財団法人として、これまで順調に運営が出来ていること。平成25年度の文化観光資源保護の助成事業について、これまでと同規模の助成額を維持し、きめ細やかな助成を実施することが出来た。」旨の挨拶と報告がありました。続いて、評議員の選任、平成25年度事業報告・計算書類等の議案審議が行われ、すべて原案のとおり承認されました。又、理事会での決議事項や本年度これまでの事業経過について報告が行われました。

評議員の一部異動（敬称略）

【新任】 ●評議員 坪田 眞明（宮内庁京都事務所長）

【退任】 ●評議員 北 啓太

平成26年度文化観光資源保護助成事業に48件、6,060万円の助成金の申請がありました。

本年度の文化観光資源保護助成事業について、これまでに申請受付を行いましたところ、下記の48件、6,060万円の助成金交付申請がありました。申請がありました各保護事業について、現地調査及び資料収集、写真記録を行い、調査内容をもとに専門委員会で意見をいただき、本年度の助成対象を選定いたします。

1) 文化財所有者、管理者等の行う文化観光資源保護事業に対する助成

単位:万円

申請者	事業内容	助成申請額
賀茂別雷神社（北区）	摂社山口社拝殿修理工事	70
教王護国寺（東寺、南区）	鐘楼修理工事	70
今宮神社（右京区）	拝殿修理工事	70
長得院（上京区）	紙本墨画「水辺虎図」「山水図」襖絵修理	70
檀王法林寺（東山区）	「源氏物語図」屏風修理	70
毘沙門堂（山科区）	「天女図」障壁画修理	70



賀茂別雷神社（上賀茂神社京都市北区）
摂社山口社拝殿修理工事

屋根の損傷が著しいことから檜皮屋根の葺き替えなどの修理工事が行われる。



今宮神社（京都市右京区）
拝殿修理工事

長和4年(1015)創建のもと仁和寺の鎮守社。経年劣化による木部や屋根などの損傷が著しいことから修理が行われる。

2) 伝統行事、伝統芸能の保存及び執行に対する

(1) 伝統行事・伝統芸能保存事業

単位:万円

申請者	事業内容	助成申請額
(公財)祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾修理事業9件	195
京都五山送り火連合会	五山送り火各山火床整備事業5件	380

(2) 伝統行事、伝統芸能執行・公開事業

単位:万円

申請者	事業内容	助成申請額
葵祭行列協賛会	葵祭行列の執行	675
祇園祭協賛会	祇園祭山鉾巡行の執行	2,050
京都五山送り火協賛会	京都五山送り火の点火執行	650
時代祭協賛会	時代祭行列の執行	623
嵯峨御松明保存会	嵯峨お松明行事の執行	20
賀茂競馬保存会	賀茂競馬行事の執行	25
藤森神社駈馬保存会	藤森駈馬行事の執行	25
糺の森流鏑馬神事等保存会	糺の森流鏑馬行事の執行	25
鞍馬山竹伐り会式保存会	鞍馬竹伐り会行事の執行	13
花脊松上げ保存会	花脊松上げ行事の執行	25
広河原松上げ保存会	広河原松上げ行事の執行	25
雲ヶ畑松上げ保存会	雲ヶ畑松上げ行事の執行	20
烏相撲保存会重陽社	烏相撲行事の執行	10
西之京瑞饋神輿保存会	西之京瑞饋祭行事の執行	25
北白川伝統文化保存会	北白川高盛御供行事の執行	6
日野裸踊保存会	日野裸踊行事の執行	6
鞍馬火祭保存会	鞍馬火祭行事の執行	200
桂川舟渡し保存会	松尾祭桂川舟渡御行事の執行	10
蹴鞠保存会	蹴鞠の公開	20
壬生大念仏講	壬生狂言の公開	15
神泉苑大念仏狂言講社	神泉苑狂言の公開	15
千本えんま堂大念仏狂言保存会	千本えんま堂狂言の公開	15
嵯峨大念仏狂言保存会	嵯峨狂言の公開	15
吉祥院六斎保存会	吉祥院六斎の公開	15
久世六斎保存会	久世六斎の公開	15
中堂寺六斎会	中堂寺六斎の公開	15
梅津六斎保存会	梅津六斎の公開	15
小山郷六斎念仏保存会	小山郷六斎の公開	15
千本六斎会	千本六斎の公開	15
壬生六斎念仏講中	壬生六斎の公開	15
西方寺六斎念仏保存会	西方寺六斎の公開	10
川上やすらい踊保存会	川上やすらい花の公開	13
今宮やすらい会	今宮やすらい花の公開	13
玄武やすらい踊保存会	玄武やすらい花の公開	13
上賀茂やすらい踊保存会	上賀茂やすらい花の公開	13
久多花笠踊保存会	久多花笠踊の公開	25
八瀬郷土文化保存会	八瀬救免地踊の公開	20
(公財)松ヶ崎題目立正会	松ヶ崎題目踊の公開	10
番匠保存会	番匠儀式・上棟祭の公開	10



祇園祭山鉾「鯉山」の山上神殿保存修理事業

明治5年(1872)製作で、長年の使用により損傷が著しいことから修理が行われた。



京都五山送り火「松ヶ崎妙法送り火」の火床整備事業

行事の執行に支障のないように火床の再塗装が行われる。



鞍馬竹伐り会式

毎年6月20日に行われる鞍馬寺の伝統行事。



時代祭行列

毎年10月22日に行われる平安神宮の祭礼で、京都の三大祭の一つ。

3) 文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備に対する助成

申請者	事業内容	単位:万円 助成申請額
(公財)京都古文化保存協会(東山区)	文化財周辺松喰虫等駆除事業	320



(公財)京都古文化保存協会の文化財周辺松喰虫等駆除事業
社寺境内の景観保全のため、松喰虫等の害虫駆除事業が行われる。

史跡「大枝山古墳群」、名勝「雙ヶ岡」など 各地元地域の保存会のご協力のもと 史跡・名勝などの保存管理につとめています。

当財団では、史跡、名勝など26か所の保存管理につとめています。うち8か所については、日常のパトロールや定期的な除草・清掃作業、見学者の対応など各地元地域の保存団体の皆さんのご協力のもとに行っています。ご協力いただいている保存団体をご紹介します。

□史跡西寺跡保存会

史跡西寺跡の維持管理につとめられ、地元京都市南区唐橋の住民の皆さんで日常の見回りを行い、自治会、団体、町内会の協力のもと一斉清掃、除草作業に取り組まれている。



□榎原廃寺跡史跡公園保存会

京都市西京区榎原地域の自治会の住民の皆さんを中心に組織し、史跡榎原廃寺跡の維持保存に取り組まれている。

史跡「榎原廃寺跡」周辺の保全のため、榎原廃寺跡史跡公園保存会の皆さんをはじめ地元住民の方々によって一斉清掃活動が定期的に行われている。

□史跡天皇の杜古墳保存会

史跡天皇の杜古墳の保存に取り組まれ、京都市西京区の地元地域の各種団体に所属する皆さんで組織され活動されている。



史跡「天皇の杜古墳」では、史跡天皇の杜古墳保存会会員の方々や地元地域の各種団体の皆さんが、日頃のパトロールや清掃活動を行い古墳の維持保存に取り組まれている。

□桂坂古墳の森保存会

史跡大枝山古墳を含む桂坂古墳の森の自然、景観保存に取り組まれ、地元京都市西京区桂坂の住民の皆さんを中心に幅広い活動をされている。

□名勝雙ヶ岡保存会

名勝雙ヶ岡の保存と景観保持につとめられ、地元京都市右京区御室地域の各町内住民の皆さんで組織され、積極的な活動がされている。

□史跡蛇塚古墳保存会

京都市右京区太秦にある史跡蛇塚古墳の維持管理につとめており、特に古墳内部の見学希望者の受付など対応している。

□史跡御土居保存会

京都市北区鷹峯旧土居町の史跡御土居の維持管理につとめられ、御土居内の清掃・除草や見回りパトロールが行われている。

□方広寺石塔保存会

史跡方広寺石塔及び石塔において、石塔の維持管理のため地元京都市東山区本町の住民の皆さんにより日常の見回り監視、清掃などされている。

京都市指定有形文化財「長江家住宅」 祇園祭特別公開事業を実施しました。

去る7月14日～16日・20日～24日の期間に京都市指定有形文化財「長江家住宅」の祇園祭特別公開事業を実施しました。前祭宵山の期間では、当家所蔵の屏風飾りを公開



し、後祭宵山期間には趣きを変え京町家の夏の室礼^{しつらい}や当家所蔵の商売道具、暮らしの資料などを特別展示しました。期間中延べ2,290人の見学者を数えました。また、見学者への案内説明を「京都の文化財を守る会」ボランティア部の皆さんにご協力いただきました。

2015/平成27年版 京の文化財卓上カレンダーを 「門」をテーマに作成しました。

京都の文化財や観光資源の普及啓発と当財団の活動を紹介することを目的に毎年作成していますオリジナルカレンダー2015年・平成27年版を「門」をテーマに下記の内容で作成しました。

■規格 卓上型・10cm×17.4cm, 14枚組

(表紙・2016年カレンダー含む)・解説書

■掲載内容

- 表紙 平安神宮應天門
1月 北野天満宮中門
2月 妙心寺山門楼上内部
3月 知恩院三門
4月 勝持寺仁王門
5月 東福寺三門
6月 金戒光明寺山門楼上内部
7月 建仁寺開山堂楼門
8月 二条城東大手門
9月 大徳寺山門楼上内部
10月 南禅寺三門
11月 古知谷 阿弥陀寺山門
12月 真宗本廟(東本願寺)御影堂門

■頒価 限定700部 1部 700円(税込)

■販売場所

当財団事務局、京都総合観光案内所「京なび」(JR京都駅)、東京「京都館」

※会員の方には、割引頒布をいたします。申し込みは、会員事業案内(別冊)又はインターネットホームページの会員専用サイトからお申し込み下さい。



ご支援・ご協力ありがとうございました

特別寄附金・一般寄附金 芳名録 (2014.5.1~8.31)

(敬称略)

【特別寄附金】

[公益目的事業共通]

個人

三大寺司朗 (京都市) 古橋 徳康 (京都市) 境 春子 (京都市) 安間美津彦 (小田原市)

[文化観光資源保護事業]

法人

錦水館 代表者 田村精太郎 (京都市) 栗原特許事務所 代表者 栗原弘幸 (東京都)
京都市洛西竹林公園 (京都市)

個人

山田 庫市 (京都市) 藤田 雄介 (静岡市) 前田 英彦 (京都市) 太田 稔 (京都市)
濱上 文子 (京都市) 藤森 弘子 (宇治市) 三崎 正敏 (東京都)
友廣 隆 (京都市) 小塩 恭市 (長岡京市) 植田 淑子 (京都市) ほかに匿名8名

【一般(会員)寄附金】

法人

妙顕寺 代表役員 三田村鳳治 (京都市) 善願寺 代表役員 田中良昌 (京都市)
薬師寺 代表役員 安藤靖高 (京都市) とみ家 代表者 南出令子 (京都市)
雲龍院 代表役員 市橋朋幸 (京都市) 壬生六斎念仏講中 会長 林啓之典 (京都市)
九州砒山株式会社 代表取締役 三井一雄 (東京都)

個人

山下 玲子 (京都市)	橋本 武尚 (京都市)	太田 錠次 (愛知県額田郡)	田島 和美 (茨木市)
小林知住子 (京都市)	藤田 雄介 (静岡市)	松田 浩子 (京都市)	杉丸 一美 (宇治市)
野嶋 義治 (宇治市)	上川 正 (京都市)	川嶋 博 (さいたま市)	上村 京子 (大山崎町)
木田 明美 (東大阪市)	新小田敏子 (東京都)	川嶋 純子 (さいたま市)	太田 稔 (京都市)
奥村 秀策 (横浜市)	渡邊 勝広 (京都市)	林 詠子 (八幡市)	矢野 精一 (宇治市)
江上 泰山 (京都市)	重道 和男 (宇治市)	谷口 幸治 (京都市)	大倉恵美子 (高槻市)
濱上 文子 (京都市)	渡邊礼以子 (京都市)	川嶋 秀幸 (さいたま市)	安間美津彦 (小田原市)
柴山 哲夫 (京都市)	本道 隆子 (藤枝市)	井上 京子 (東京都)	今井 春美 (京都市)
杉原 賢一 (京都市)	高橋 克枝 (京都市)	細井 淳子 (東京都)	堀 富佐子 (京都市)
杉原 京子 (京都市)	三大寺司朗 (京都市)	藤田 清臣 (京都市)	堀 雄作 (京都市)
吉田 隆 (京都市)	杉田 実 (八尾市)	山内 洋子 (京都市)	相馬すみ子 (京都市)
江村富美子 (京都市)	仲谷 滋 (京都市)	黒澤嘉代子 (名古屋市)	清水 公子 (八幡市)
久井 一駿 (東京都)	古橋 徳康 (京都市)	池田美智子 (京都市)	林 節子 (鎌倉市)
操田 邦男 (堺市)	渡邊 正勝 (横浜市)	八木代志子 (向日市)	清水香代子 (米子市)
稲垣 悠 (神戸市)	高島 正子 (京都市)	小野 光枝 (横浜市)	花岡 健 (京都市)
山田 靖 (大阪市)	浅見 喜弘 (京都市)	大野 要範 (神戸市)	藤本喜久枝 (八幡市)
垂水 静子 (京都市)	峠 紀子 (茨木市)	吉川 克枝 (京都市)	毛利タカ子 (八幡市)
藤田 博之 (西宮市)	神野 廣子 (大阪府三島郡)	柳井 浩 (摂津市)	鈴木 茂 (平塚市)
早 厚子 (京都市)	篠原 明 (大山崎町)	松村 稔子 (京都市)	鈴木 住江 (平塚市)
伊勢 初枝 (京都市)	永来 保二 (宇治市)	境 春子 (京都市)	中村 忠司 (京都市)
伊勢 和夫 (京都市)	山口 彰 (京都市)	畠中ひろみ (守山市)	栗原 弘幸 (東京都)
伊勢 芳夫 (尼崎市)	高木 陽子 (京都市)	中岡 耀子 (京都市)	牛尾 忠子 (姫路市)
内藤 卓子 (長岡京市)	今野 勇一 (高槻市)	藪口 恵 (神戸市)	川上 信也 (流山市)
原山八重子 (京都市)	船越 勝博 (京都市)	植田 淑子 (京都市)	堀江 精一 (京都市)
八木橋孝男 (市川市)	林 節治 (京都市)	岩本 正博 (西宮市)	岡野 智子 (枚方市)
明石 忠 (京都市)	村上 寿子 (京都市)	岩本 歩 (西宮市)	村上 俊枝 (向日市)
金本 絵美 (枚方市)	岩井 至栄 (京都市)	村川 武彦 (芦屋市)	富岡みさを (京都市)
森川 照子 (京都市)	砂田 岩男 (広島市)	安藤由記男 (船橋市)	宗宮 博 (大垣市)
友廣 隆 (京都市)	岡 雅之 (京都市)	谷山 正昭 (茨木市)	
高原 一江 (長岡京市)	倉澤 由美 (京都市)	中 百合子 (京都市)	ほかに匿名41名

※各ご芳名は、寄附受納日順に掲載しています。

一京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために

皆様のご支援・ご協力をお願いいたしますー

◇皆さまからの特別寄附や新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援とご協力をお願いいたします。また、当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布・設置にもご協力下さい。

◇寄附金は、税の優遇措置を受けていただけます。当財団は「公益財団法人」として認定を受けていますので、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用され、個人の方は確定申告により所得税の控除を、法人においては法人税の損金算入が認められています。

また、京都府・市にお住まいの方は、個人住民税(京都府民税、市民税)の控除が適用されます。

京都市文化観光資源保護財団ウェブサイト
—京都 その文化遺産の保護と未来のために—
<http://www.kyobunka.or.jp>

ウェブサイトでは、当財団の事業活動、情報公開や京都の文化財、観光などの情報を発信しています。また、会員専用サイトでは会員事業の案内・申込みやお便りなど掲載していますので、ご利用下さい。



当財団の事業活動にボランティア協力をいただきます
「京都の文化財を守る会」では、会員募集をされています。

当財団が実施しています文化財特別公開事業や会員文化財特別鑑賞事業などにボランティアでご協力をいただいています「京都の文化財を守る会」では、現在新規会員の入会を募集されています。当会は、設立46年を迎え、現在約130名の方々が在籍し、京都府内の4支部で研修会や京都の文化財愛護の普及活動に取り組まれています。当会では、文化財保護啓発運動に熱意をお持ちの方々の入会を募集されています。

問 京都の文化財を守る会

合 事務局 小澤方 ☎075(326)4890,

わ 吉田方 ☎075(211)3663まで。(電話・FAXとも)

後援事業

第49回「京の冬の旅」

(公益社団法人京都市観光協会主催)

期間 平成27年1月10日(土)～3月18日(水)

今回は、「古都京都の文化財 世界遺産登録20周年記念」と「琳派400年記念」をテーマに非公開文化財などが特別公開されます。

〇問い合わせ：京都市観光協会 ☎075(752)7070まで

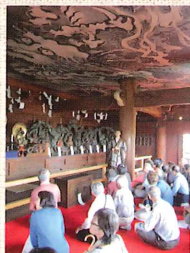
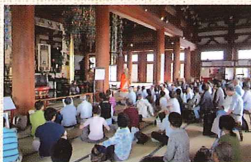
会 員 通 信

会員事業を実施しました。

◆黒谷「金戒光明寺」を訪ねて

—朝がゆの集いと文化財特別鑑賞—(5月31日)

当寺の特別なご協力のもとに105名の参加者のもと実施しました。はじめに、参加者のうち事前に申し込まれた希望者に特別にご用意いただいた「朝がゆ」を召し上がっていただきました。全員で食前と食後の言葉と念仏を唱和し、食事作法も体験しました。その後の文化財特別鑑賞では、芳井秀教執事さまからご挨拶をいただき、橋本周現執事さまから「金戒光明寺の歴史と文化財」について、詳しいお話しをお聞きました。続いて、ご案内のもと修復された山門や大方丈、庭園など鑑賞していただきました。朝がゆと拝観で皆さんお寺でのひとときをごゆっくり過ごされました。



参加された皆さんのご感想 (一部・敬称略)

●朝がゆ体験、本当に素晴らしかった。食前・食後のことばも新鮮で10回の念仏もしっかり唱えました。ユーモアを交えたご講話も楽しく素敵な京都の一日、ありがとうございました。(岩本正博・あゆみ) ●執事長様のお話し、勤行に参加させて頂き、自己を見つめ直す事が出来ました。山門からの眺めも素晴らしかったです。(田中一幸) ●今回ご縁をいただき参加させていただき本当に清々しい気持ちになりました。多くの人々のご尽力により貴重な文化財が残されていることにこれも法然上人様のおかげであると思います。又、四季折々に訪ねてみたいと思いました。(匿名)

◆京都市指定有形文化財「長江家住宅」

祇園祭特別公開招待事業

7月20日～24日の祇園祭後祭の期間中に実施しました当事業に申し込みのあった95名の皆さまをご招待しました。夏の室礼と当家に伝わる呉服商家の商売道具、暮らしの資料などの特別展示をご覧いただきました。

◆祇園祭前祭山鉾巡行観覧

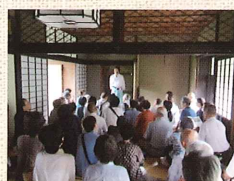
招待事業(7月17日)

本年から山鉾巡行は、約半世紀ぶりに前祭(7月17日)と後祭(7月24日)に行われることになりました。前祭の山鉾23基の巡行を当財団の招待席で観覧いただきました。



◆文化財特別鑑賞「伏見稲荷大社」を訪ねて(9月6日)

当日は、104名の皆さんに参加いただきました。はじめに、重要文化財に指定されました社殿を紹介されている映像を鑑賞し、続いて岸 朝次伏見稲荷大社宣揚課長・禰宜様から「伏見稲荷大社と稲荷信仰」について詳しいお話しをお聞きました。その後、本殿を正式参拝し、ご案内のもと非公開の荷田春満旧宅、お茶屋をはじめ境内の社殿を特別に見学させていただきました。しかし、突然の強雨のため残念ながら見学途中で終了することになりました。



◆京都市観光協会「第39回京の夏の旅 文化財特別公開『島原 輪違屋』」招待事業

公益社団法人京都市観光協会主催の第39回京の夏の旅 文化財特別公開「島原 輪違屋」の招待には、大勢の皆さまからお申し込みをいただきました。10年ぶりの一般公開ということもあり、皆さまの関心も高かったので申込者全員にご案内させていただきました。

◆京都五山送り火記念の「扇子」を進呈

京都五山送り火協賛会作製の今年の「扇子」は、175名の多くの皆さまから申し込みをいただきましたので、抽選により28名の方々に進呈しました。

※会員事業に参加されました皆様からのご感想などをインターネットホームページ会員専用サイトの「会員だより」に掲載しています。

京都市文化観光資源保護財団 会報 No. 111
発行日/2014年(平成26年) 11月1日
会報題字/理事長 山口昌紀

編集・発行/公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団 事務局
京都市東山区三条通大橋東一丁目73番地2 京都三条大橋JL3階
TEL 075(752)0235 <http://www.kyobunka.or.jp>
印刷/株式会社 図書印刷 同朋舎

E-005-0001